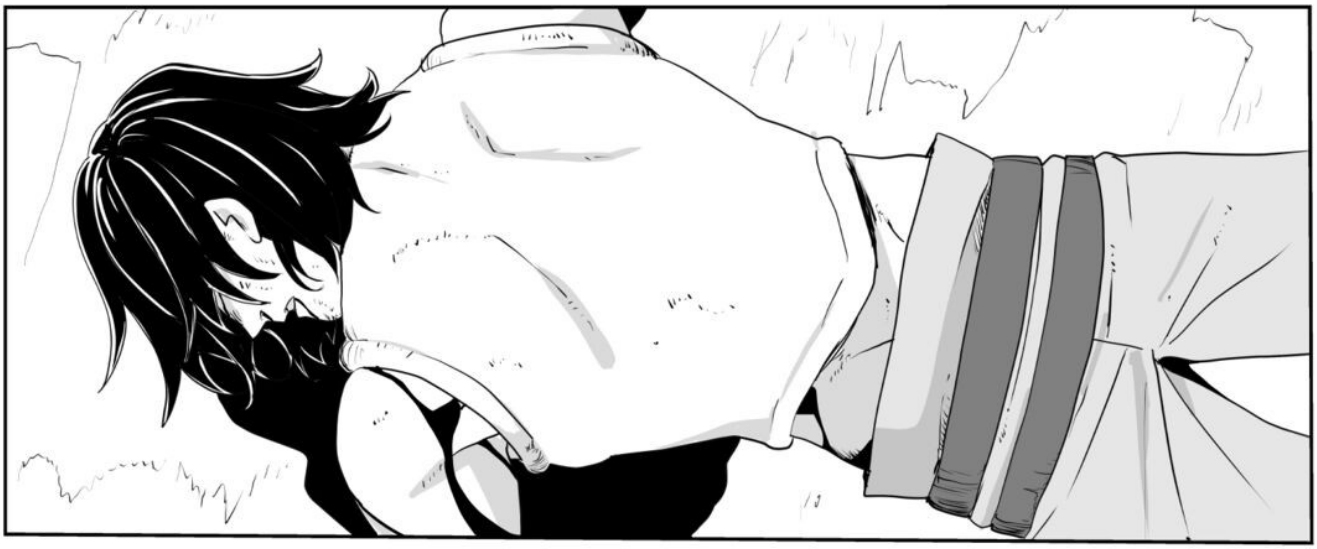
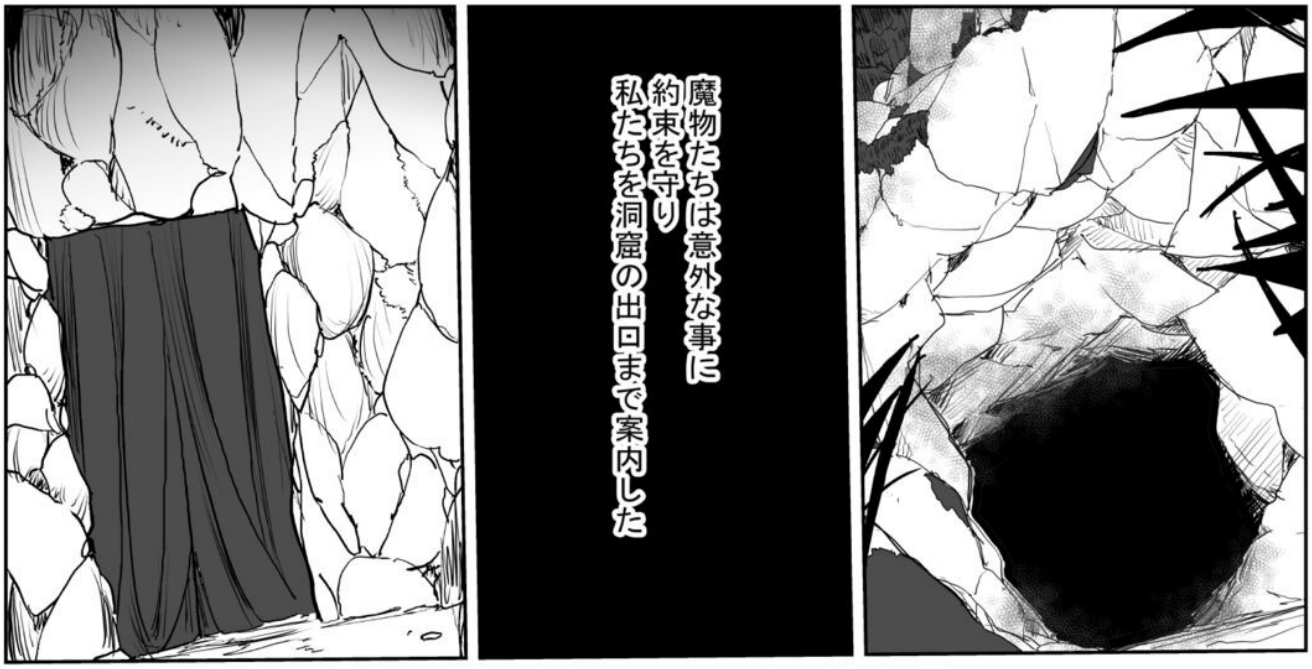







おい！
向こうで誰か
倒れてるぞ


まだ生きてるぞ！
・・・ひでえ傷だ・・
きっと奥さんも心配しているだろう
早く村へ連れて帰るぞ


魔物たちは意外な事に
約束を守り
私たちを洞窟の出口まで案内した


しかし夫を安全な場所まで運んだ所で
私は再び洞窟の奥、
ボスの前まで連れていかれ
そこで私と夫の命と引き換えに命じられたのは
魔物たちの性欲処理だった・・・

武器を奪われたあと
私には部屋があてがわれた

常に門番に
見張られてはいるものの

そこはある程度清潔
に保たれていて

ベッド
そして大きなタンスが有り
中には色々な服が入っていた

・・・元々の持ち主が
どうなったかは
あまり考えたくない・・・

ザー

なんと水脈から引き込んだ水で
入浴まで出来る
場所が確保されてあった


私は部屋に入って来た
魔物の相手をする
ん
ん・・
ギギィ
ギィ
ズッ
ズッ
魔物は人間の女を
好むが
んん・・！
洞窟を出て人間を攫うのは
彼らにとっても
ある程度リスクがあるようで
んっ
んんっ
ズッ
ズッ
危害を加えられる
事は無い
んちゅ
んむ
私がここで
魔物の相手を
している限り


そんな生活を
数日過ごすうち
はあ・
はあ・・
はあ
魔物にも
性癖とゆうものが
ある事が
分かってきた。
タンスの中の服を
借りていて気づいた
のだが
服装によって
興奮度が違うのだ
魔物を悦ばす為に衣装を着替える
なんてバカバカしい
自分でもそう思う
夫に頼まれた時でさえ
拒んだのに
・・・こんな格好を
もし彼に見られたら
どう思われるか・・・


だけど少しでも
行為の時間を短くしたかったし
飽きられたら殺される
可能性だってある
生きぬくには
仕方がないことだ
スライム抽出ローション
このような娼婦のような真似を
ドロォォ…
この小さな魔物
マンドラゴラは
大変気に入っている
……
スッ…


マンドラゴラの悲鳴には
気を付けなくてはいけない
まともに聞いて
しまうと
死ぬ事もあり得る
んん・・
ん・・
軽めの刺激で
優しく射精を促す
んん・・
ん・・


ん…
ん…
んん…
ん…
ん…
ん…
ニュリ…
ニュ…
ニュル…
ニュリ…
ムニュウ…
優しく優しく…
ニュウ…


…こんな事する為に冒険者になった訳じゃ無いのに
ニュパッ
こんな事ばかりしているー
ニュパッ
夫は無事だろうか…
あの傷ではすぐには…
ニュパッ
ギギィ・
ギッ
しまっ…!
強過ぎた…!
叫ばれたらまずい…!
んむう…!
ギム・


んちゅ
ちゅっ
咄嗟に口で
悲鳴を塞いだけど
んん・・
さっきより
硬く
なってきてる・・・
コイツ・・・
腰降ってる
・・・


ドクッ!!
ビュ
ビュ
ビュ
ドプ
ドプ


ちゅっ
ちゃぱ
ちゅっ
体液を出し尽くして
干からびたみたい…
ちゃー
ちゃぱ
ちゃぱ
ちゃぱっ
しばらくは起きて
来なそうね
チュッチュッ
ぢゅぱ
ぢゅっっ…
さっきのは
危ないところだった…
ピッ…


彼ともう一度会うまでは
死ぬわけにはかない
ズブブ。
ズブブブ。。。。
んん・・
夫は必ず
生きている
ずぶぶぶ！
そして
きっと
助けに
来てくれる
はず
ん・・
ゆっさ
ゆっさ
んっ
んん・・

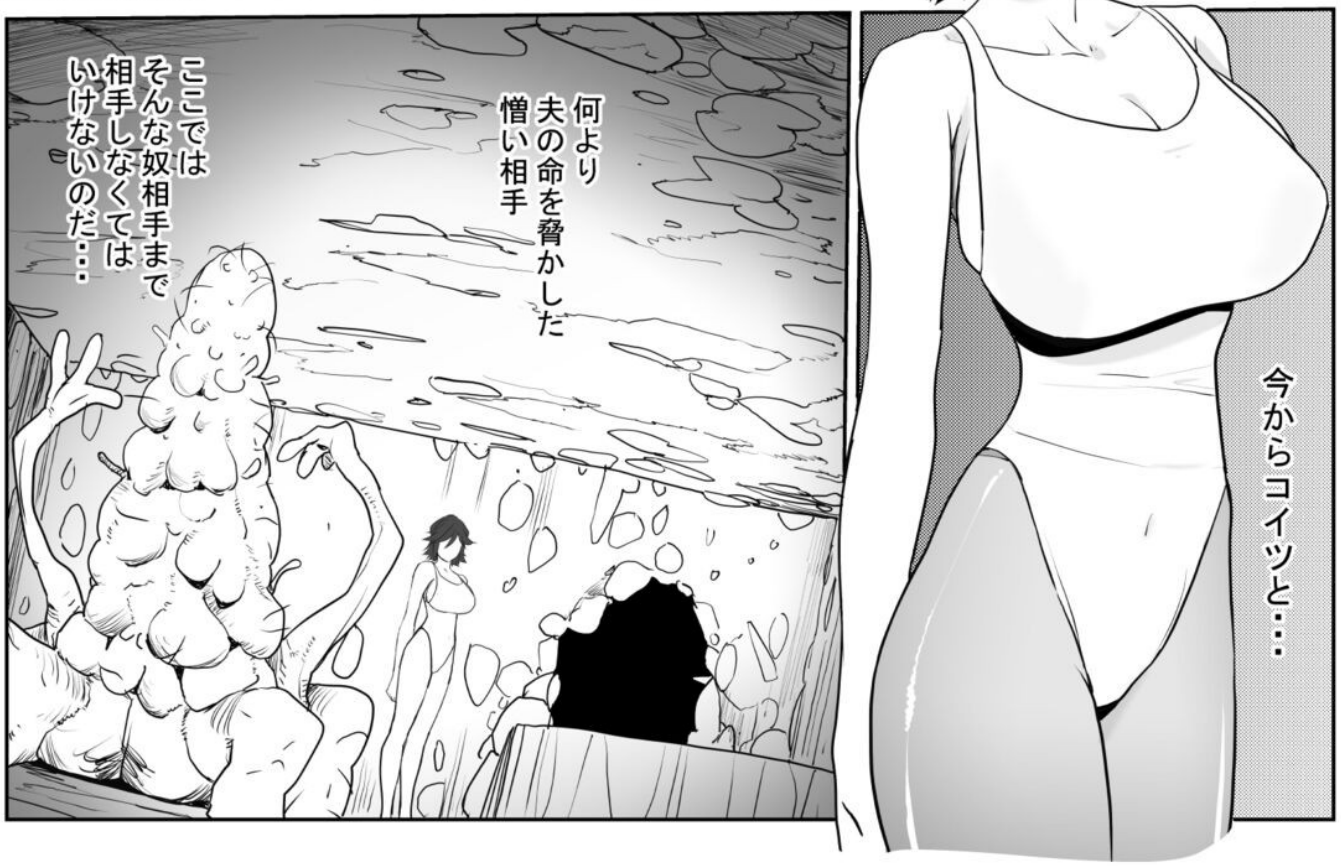

あの深手では
時間が
少しかかるかも
しれない
ゆっさ
ゆっさ
じゅるじゅる
ぐひ
でも彼の事だから
動けるようになったら
すぐにでも行動
するだろう
ブルブル
ズブズブ
じゅるっ
ぐひひい
ニュウ
それまでは…
んっ
ん
ぐひ！
ぶるる
……
ドビュッ
ドピュ…
ドプッ
ドプッ


…
ぐひ・・
ドロォ…
ブルン
それまでは
従順でいないと・・
ヂュパーッ
ヂュパ
ヂュプ
ヂュプ。


ギュムッ…!
んん…
プニュ
ムニ
ニタァ…
モニュ
んく…
んく…
んん!
ぐぐぐ
ギュム…
プル
プル
プル


今日は・・・
私がもっとも
憂鬱な相手が来る
ロックシューター
この洞窟の
ガーディアン
夫に重傷を負わせた奴だ
あいつが来る・・・
ファサ・・・
ズ・・ズ・・


上下に
生えている生殖器
吐き気を催す
醜い姿
ズズ
ズズ…
洞窟のガーディアン
ロックシューター


今からコイツと…
何より
夫の命を脅かした
憎い相手
ここでは
そんな奴相手まで
相手しなくては
いけないのだ…


入浴場
スライム抽出ローション
ヌロォ…
……
ロックシューターは
ローションプレイを好む
マリ2
夫の仇相手に
奉仕するなんて
屈辱でしかない…


…少しも警戒せずに
後ろ向いている…
ブニヴニして気色悪い背中
油断している
今なら
倒せる
だろうか…
…無理だろう…
武器もなく
この強力な魔物に
勝つ事なんて
プシュ
今は
従うしかない…
ムニュ
ムニュ
万が一倒せたとしても
門番にバレて報告されたら
終わりだ
ムニュ


ん
プリュ
ん
プリュ
ん
んあ
プリュン。
ん
スポンジ代わりに使う
私の大きな胸は
魔物を大変喜ばせた
ん
プリュ
プッ
ん・・
ビクン
ビクン
んん
むむう・
ギュッ
ん
ビクン

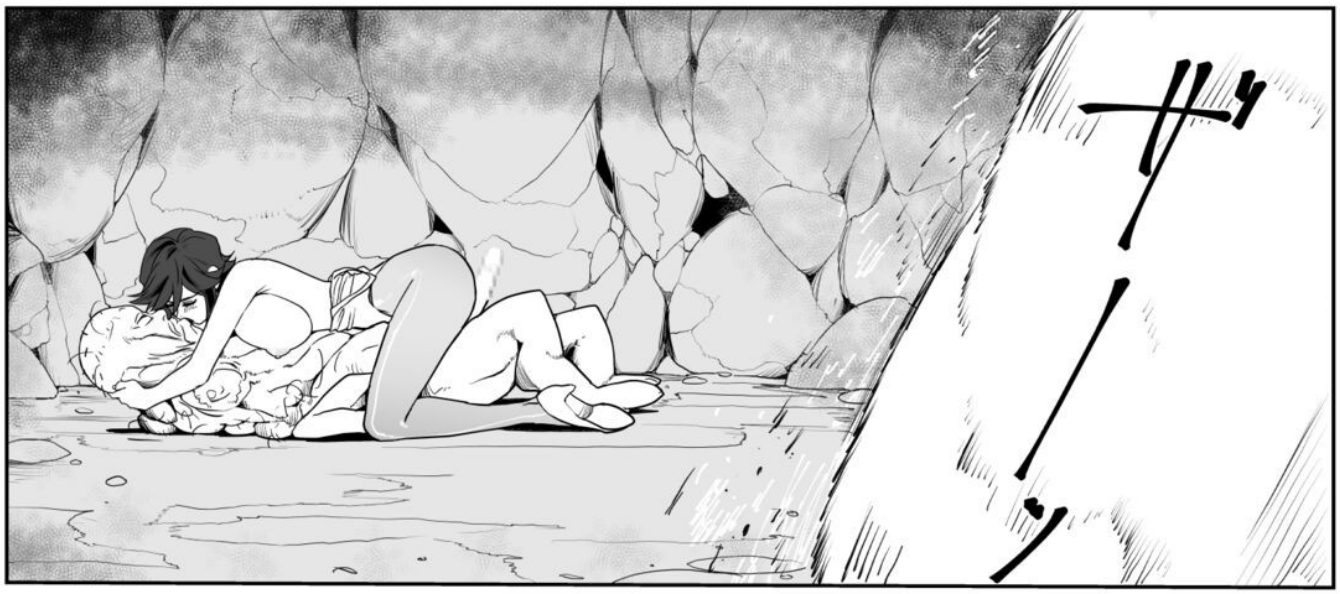

チュプ…
チュ…
ピクン
チュ…
チュプ…
チュパ

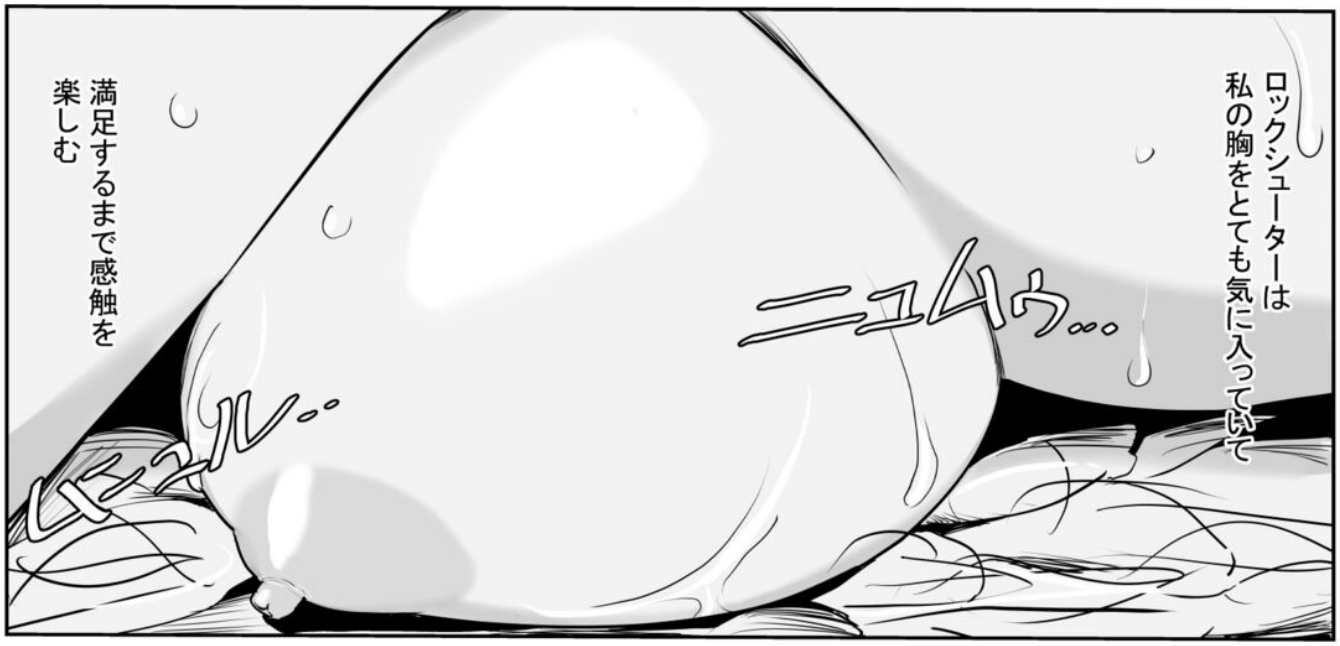

気持ち良さげな鼻息が顔にかかる……
んふう
むふう
ん
不快な時間
せめて早く
終わる事を願う


んっ
んん
グニュッ
グニュッ


んふ・
んふう


ん…！


ザーン


ロックシューターは
私の胸をとても気に入っていて
満足するまで感触を
楽しむ
ニュムウ…
ムニュル…


チュプ
チュ…
ピク
ピクッ…


ムギュ…
ムニュル…
……
ムニュボッ
ギュ
私は夫の仇を興奮させるために
自ら胸を押し付ける
ムギュ…
ピク…ピクン…
んむふう…


ンぐ…！
ビクビク
ポタ
ポタ
ポタ
ポタ


当然一度や二度の射精で終わるはずもなく
上下の生殖器を使って快楽を貪る
んん・・
んむ・・・
ヌチュ・・
ヌチュ・・


んん…！
ムニュ
ムギュ
ムギュ
ギュム…
あ…ん…
グニュ
ズムズッ
ムニュ


きゃっ
ああ
んん！
あっ
んあっ
ブッチュッ！
いやあ
んんっ
ああ


んん！
ブルン
ブルン
ミリ
ズッ
いやあ
ズッ
ブルン
ブルン
ハギュウ…
あっ
ブルン
ブルン
ブルン
ブルン
ああ！
ズチュ
ズチュ
ズムッ！


ああああああ
ドクン
ドクッ
ビクッ


ズルリ…
ピク…
ピク…
ブピュ、ブプ
ゴポ
サイテー…
はー…
はあ…
ん……
はあ
はあ


下卑た笑みで
こちらを監視している
この二匹
毎日ニタニタと・・・
私が犯されるのが
そんなに楽しいのか
コイツらが
一番問題だ・・・
夫が助けに来ても
結局こいつらに
仲間を
呼ばれたら・・・
こんどこそ命は
無いだろう


私がこいつらを
なんとかしないと
戦闘能力は低そうなので
私でも勝てそうではあるが
味方を呼ばれないように
出来れば
二匹同時に始末したい
……
……
……


魔物のクセ勤勉な奴らね
少なくとも私がみている間
持ち場から離れる様子は
無い・・・
はあ・
いつまでこんなことを・・・・
・・・・・
・・・・
すー・・
すー・・
すー
すー・・


ブスー…
ガバッ
いひいいい
ピッ
ニタァ…


……
チュ…
レロォォ…
チュプ
チュプ
やはり来たか…
チュパ
チュウ…
チュパ
いつも私が寝ている間
イタズラしている
のは気付いていた
見張るしか脳のない
こんな奴等にまで
身体を好き勝手されるのは
癪だが
グチュー
グチュッポ
グチュ
少しでも
脱出の
糸口を
掴みたい
プルン


んくっ…
気持ち悪い…
……
チュ
んむ…
…!
今は我慢…
ベロォ…
ギュ…
んん…
…ん
んあ…
…んん…!
んちゅ…
なんとしても
こいつらの生態を
調べなくちゃ…

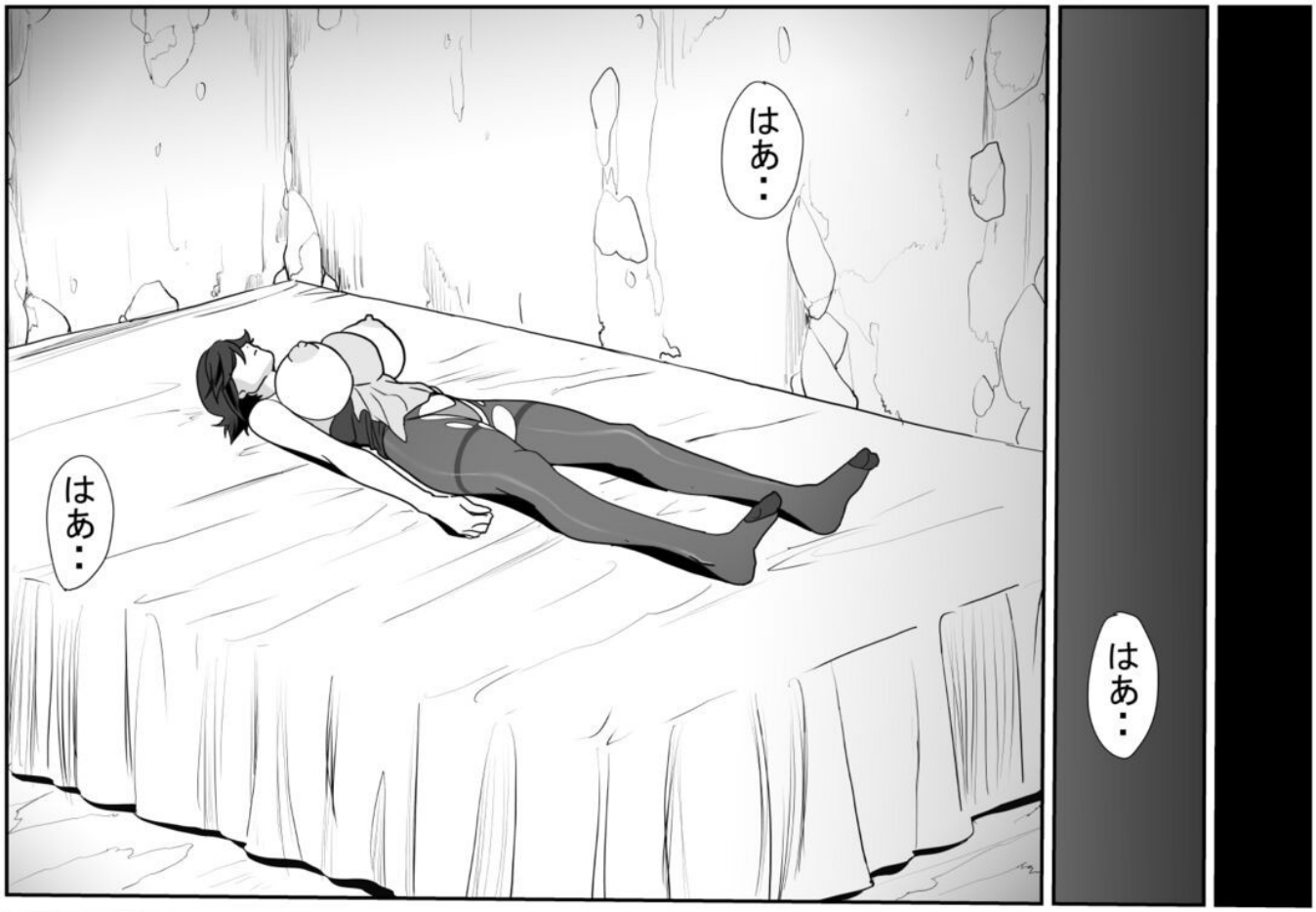

ヌチュ…
ギュル
レロォ…
レル…
ムニュ…
ジュル…
ギュ…
門番スライムは
じっくりと
味わうかのように
口内を凌辱する
ん…
ギュパ
ギュ…
プルン
んちゅ
んむ…
もう一匹はやはり
持ち場から離れない…か

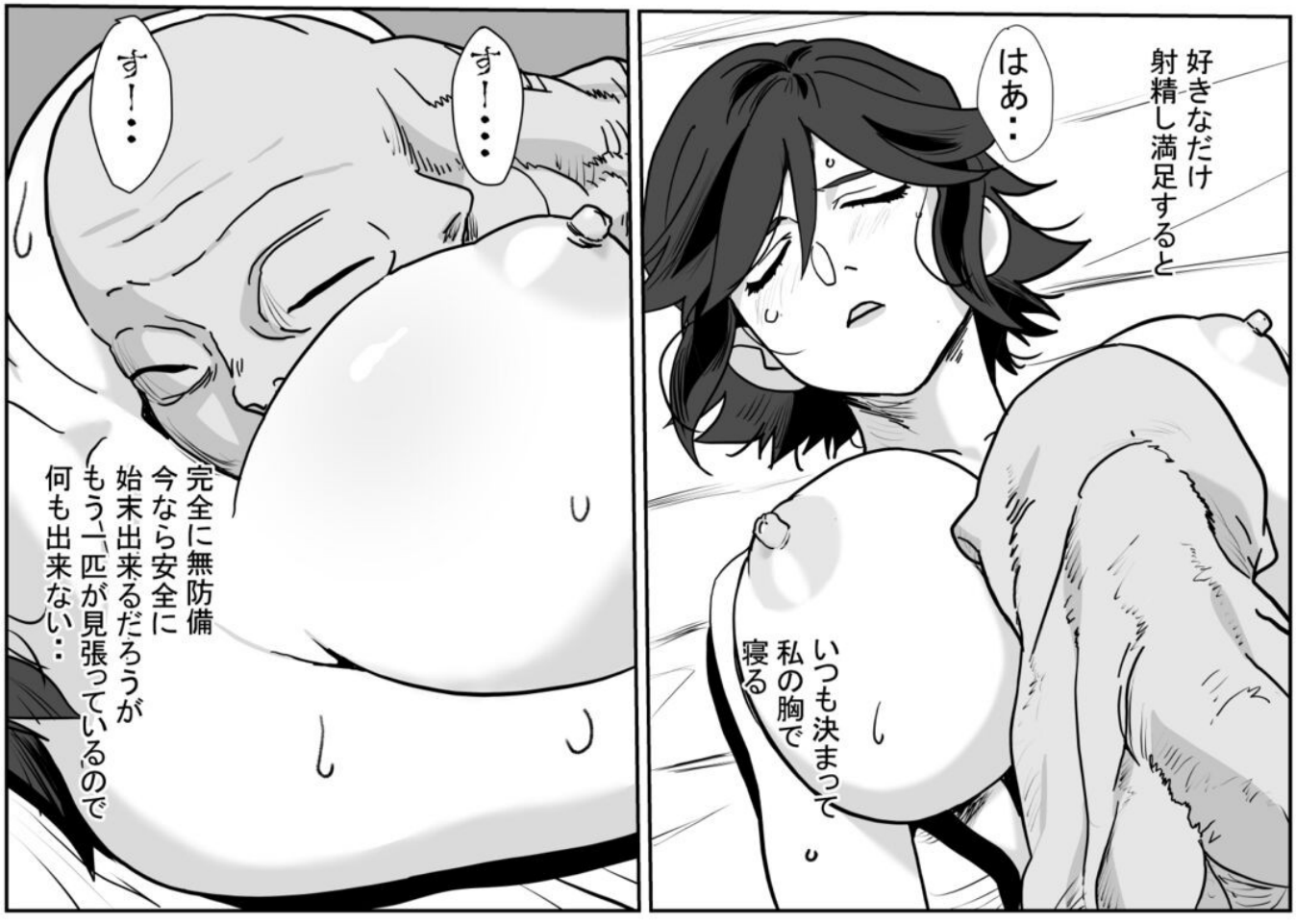

ヌヌ…
くっ…
挿入まで許すなんて
んん…！
プル
入って来る…
んぎぃぃ
ズヌヌ…
んん！


んあっ
ブルン
ブルン
あああっ
あっ
ブル
ズチュッ
ズチュッ
んん！
はああっ
ブルン
ズチュッ
ブルン
んああ

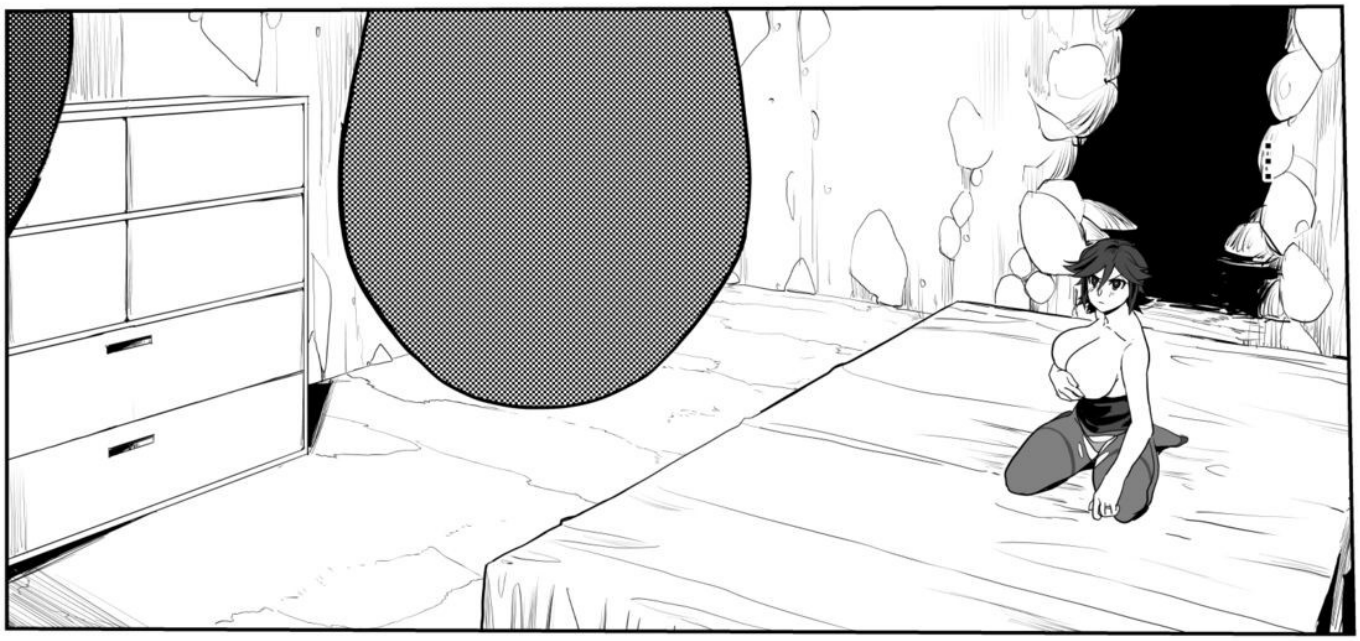

んん……！
ブルン
ブルン
ズン
ズン
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ああっ
んああ！
ああああああっ！


んぎぃぃぃぃぃぃ
ズンッ
んあああ
ああああ
ぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ！
ビクンッ…


はあ・・
はあ・・
はあ・・


好きなだけ
射精し満足すると
はあ・・
いつも決まって
私の胸で
寝る
す！・・・
す！・・・
完全に無防備
今なら安全に
始末出来るだろうが
もう一匹が見張っているので
何も出来ない・・


プルン
少しの時間寝ると
ピョンッ
元の位置に
帰って行く




結局今日も
もう一匹は
最後まで見張りを
続けていた…


く…
二匹同時でなくては
意味がない…


どうすれば…
ギィ…
これじゃただ
好きに
ヤらせやっているだけだ
何だか一気に
疲れた…
本当に
寝てしまおうか…
ピョン
ンフゥ〜

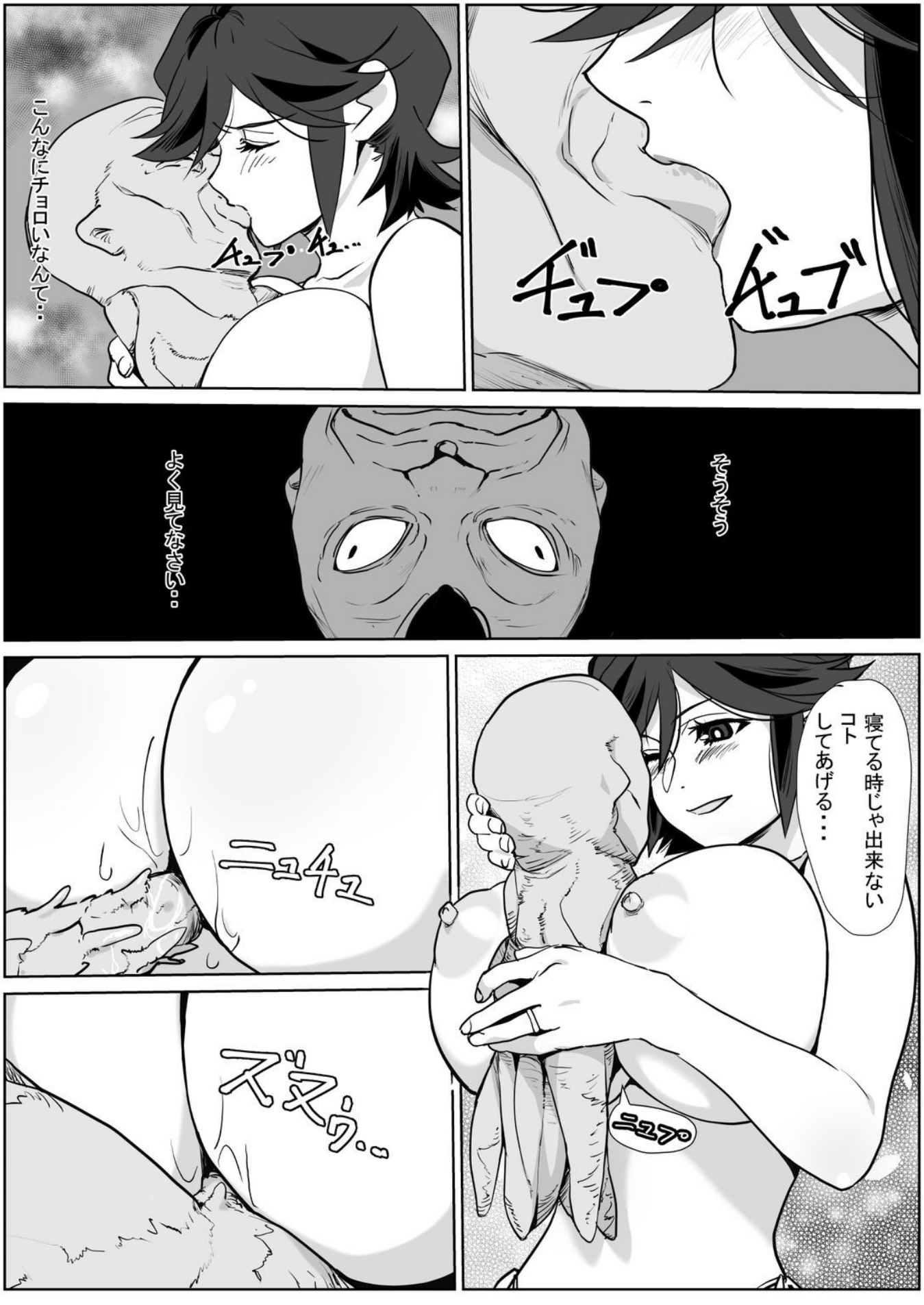

ニッブッ
ブッブ
ギシ
ズチュ
ズチュ
ギシ
ギシ
次は
自分の番だって？
ぬふっ
ふう
ふっ
ズッ
ズッ
ズチュ
必死に
がっついて
鬱陶しい…
何なのよ…
もう…




グダグダ
細かい事
考えるの
やめた




作戦としては
1匹だけを特別扱いする事で
もう一匹の嫉妬を煽る
うふ・・
早い者勝ちだよ・・・
先にきた方に
なんでもしてあげる
うわ・・
すぐ来た・・・・!
ガバッ
ブルン・・・


こんなにチョロいなんて…
ムュプ・ムュ…
ヂュプ
ヂュブ
そうそう
よく見てなさい…
寝てる時じゃ出来ない
コト
してあげる…
ニュムュ
ズヌク…
ニュプ


いひいい…
ニュップッ
ニュップッ
プニュン
プニュン
ズンズン
ズニッ
ニュップッ
ニュップッ


ニュブ
ニュブ
いぎいいいいイ！
ニュブッ
ニュブ
ドプ
ドプ
プル
プル
ドプ
ドプ
プル
プル
プル


いひい・・
いへえ・・
ダメ…
ダメっ…
プル
プルン
羨ましいでしょ
でも…
アナタとは
シテしてあげない
ブルン
ブルン
ズッ
ズチュ


良いよ・・・
A
A
A
浮きなだけ出して・・・
メ
メ
パ
パ
ン
ン


満足するまで・・
あはあ・・・！
ヌプッ
ズズ
ズッ
プルプルン
私の身体で気持ち良くなって・・


ズニュウ…
イヤッ
こっちも
チョロかったわね
ズッ
ズッ
ズッ
ここまでは
作戦成功…


後は、二匹とも
寝るまで
満足させる
ニュッパッ
ニュッヌッ
ふふ…
どう？
アナタもコレが
したかったんでしょ
ズッズズッ
ニュッ


ズッ
ズズッ
ムロォォ
プロ


ブプッ
ぎゅう。
ブチュ
ブッ
ズズッ
ズズッ
んむう・・・！
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン


-ｵｵｵｵｵｵｵｵ

ドフッ
ドクドク
ドクドク
ドクドク


ズ
ズ〜〜
ズ〜〜
ズぴ〜〜
…
充分楽しんだし
もう想いの残す事ないでしょ・・


幸にも魔物たちは門番スライムが
居なくなっている事を
気に求めていないようだった
後は魔物が
夢中になってる隙に
んふっ
んふう
助けに来てくれれば…
ヴーーン
ムニュッ
アッ
アッ
アッ


スッ…
むふう
んふ


離れろ！
無事か！
…遅いよ……

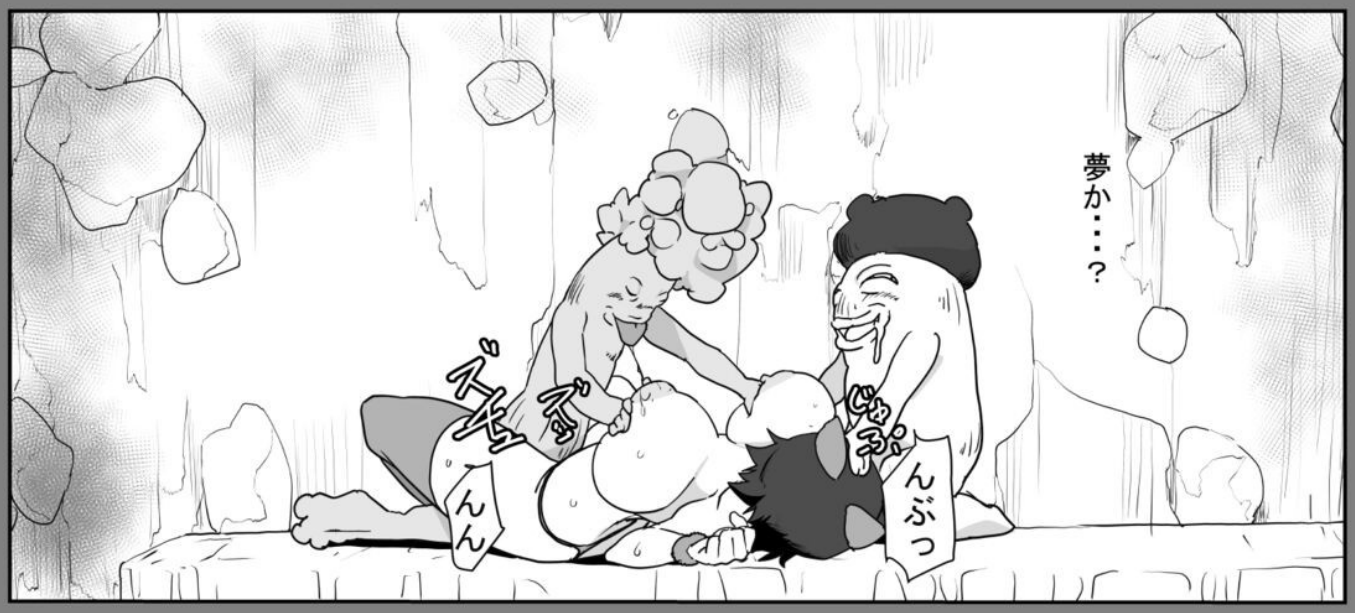

すまん・・・！
身体がなかなか動く様になら・・
メラ？
・・・・！
・・あなた！
うし・・
ニオイ

何だ…
どうなってるんだ

身体が動かない

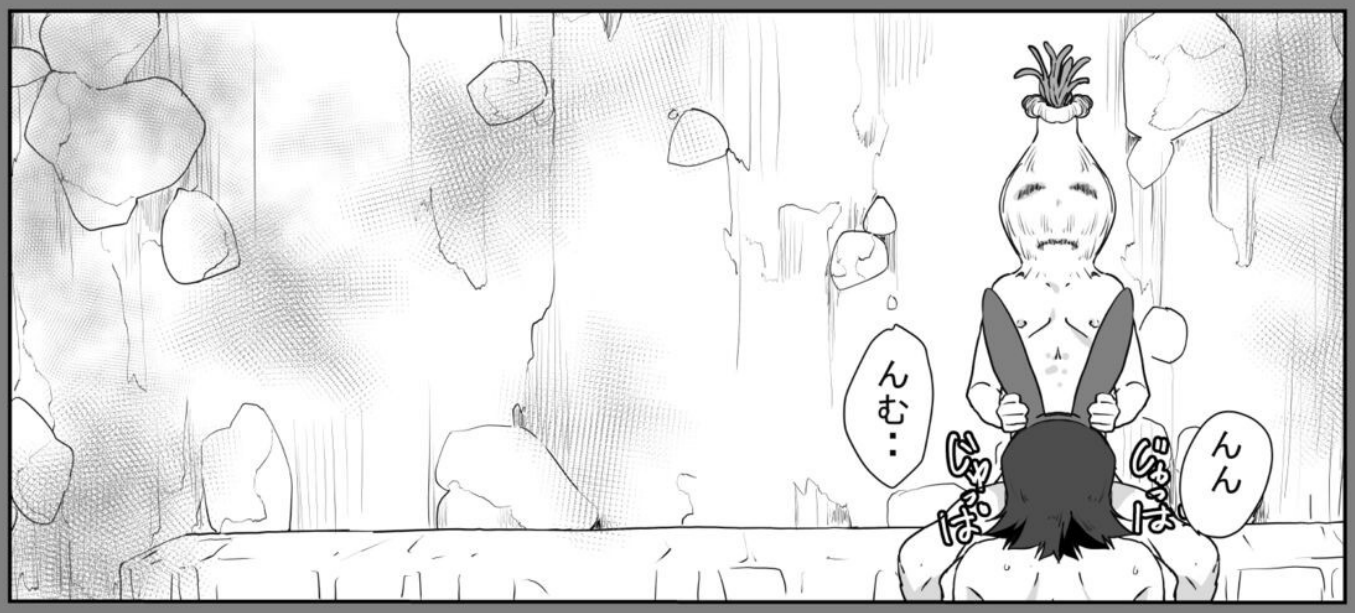
何が起きた？

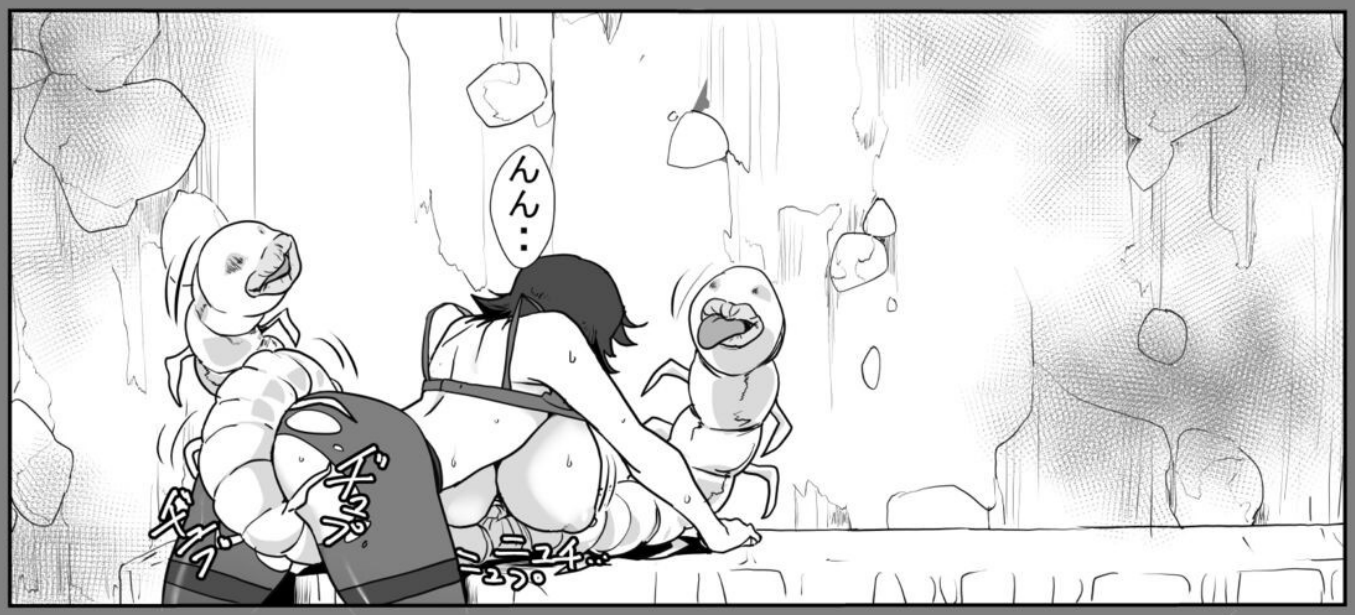



夢か…？
んぶっ
ズッ
ブッ
んん


あんな格好までして
ギギィ
ギィ
んん・
パン
パン
ちゃぱ
ちゃ


アイツなんで
抵抗しないんだ？
んちゅ
ドプッ
ん・・
ドピュ

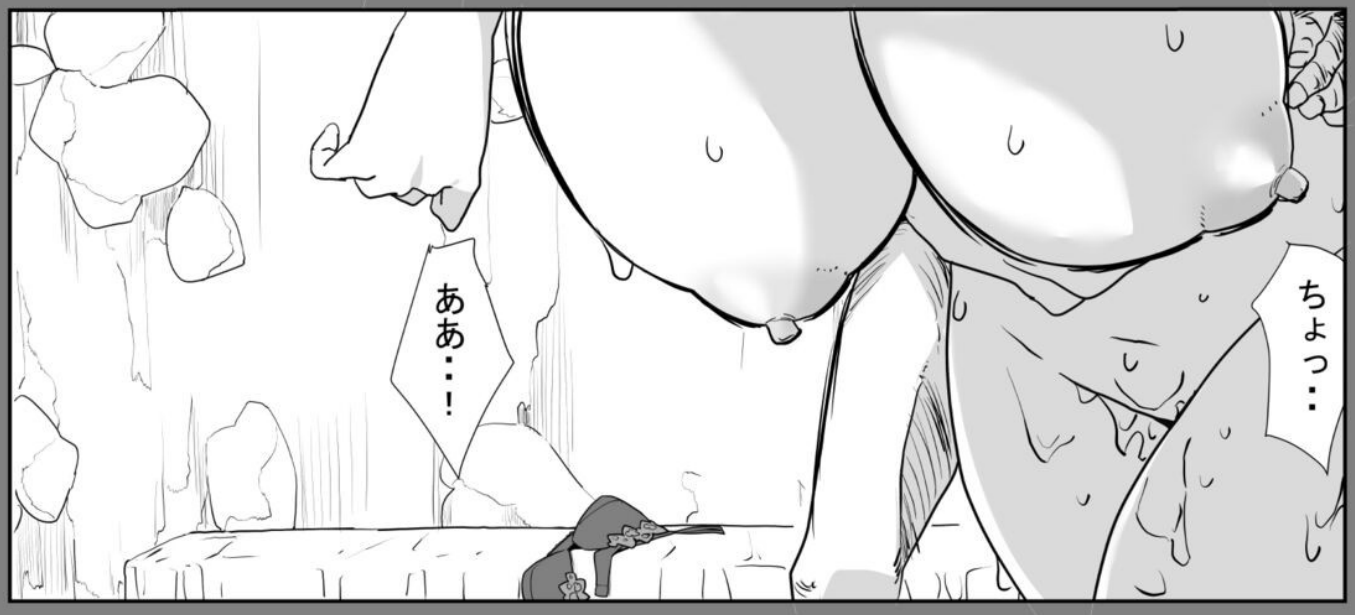

んん
じゅぱ
じゅぱ
んむ・・


んん・・
ズブ
ズブ
ニュ・・


そうか・・・
俺が生きている
からか・・・
んむうう・・！
ドピュ
ドプッ
ビュクッ
ビュ～
うう～


んあっ
んん・・・！
もう・・・
やめてくれ・・・


いやあ！
もうやめっ・・あああ！
やめてくれ・・
たのむ・・・！


ちょっ・・
ああ・・！

いっそ俺を……
いやぁ…！
ずるずる…

イヤだ…
こわい…
死にたくない…
殺してくれ……！